

岡田光弘さんへの

インタビュー

- 職業：自営業
- 家族構成：単身
- 移住歴：2年
- お気に入りのスポット
櫛田川、香肌峡



道の駅飯高駅にある「たいやき わらしべ」は焼き立てがパリパリあつあつで、冷めたときはふんわりもっちり食感が楽しめる人気のたい焼き屋さんで、地元のお茶を使用した「伊勢茶 あんたいやき」が名物のお店だ。そんな繁盛店の店長である岡田 光弘さんが今回紹介する移住者だ。

—お店の開業について

もともとはサラリーマンだったが、都会ではなく田舎で商売をしたいと常々思っていました。ご両親の墓参りのため松阪市に来た際に「道の駅飯高駅」に立ち寄ると、4店舗の飲食店が並ぶ一角に空き店舗があることを発見し、これが移住の転機となりました。当時は飲食業の経験などが無かったので開業に至るまでさまざまな苦労があったが、「松阪西部商工会」(現、松阪香肌商工会)の協力など様々な人の助力を得て一つずつ解決することで開業にまで漕ぎ付けました。



『香肌峡を全国的に盛り上げたい』

—移住する前と後で地域のイメージは変わりましたか？

移住する前は、寒そうなどころで、コンビニなどない不便なイメージで当時は食べたり生活したり出来るか不安でした。それが、住んでみると車があれば不便は感じないし、自然が豊かで櫛田川の風景や香肌峡など見る場所も多く、夜は星空が綺麗で、四季を肌で感じられる地域なので昔より自然が好きになりました。また、世話好きな人が居て、孤立することがありません。人見知りせずに相談出来たり、打解けるまでに時間がかかりません。

—あつたら良いなと思うものは何ですか？

光ファイバーなどが来ていないためネット回線が遅いので、若い人を呼ぶためにはまずインフラ整備がいると思います。あと、サッカーチームなどの地域が一体となって応援できるチームがあると良いですね。

—移住の先輩からのアドバイス

退職世代の方は暮らしやすいと思いますが、現役世代には仕事を自身で作っていく必要があるのでは、じっくりとやりたいことを考えてから来てもらうほうが良いと思います。

—今後は地域をどうしていきたいですか？

「香肌峡を全国的に有名にしていきたい同じ志を持った人と仕事をしてみたい。働き口の提供なども視野に入れて移住してくる人の受け皿になりたいです」と今後のビジョンは既に出来ているようだ。



「たいやき わらしべ」

